

令和6年度（2024年度） 環境管理実施計画兼報告書 【課名：計画課】

署名	推進責任者(課長)	作成者(推進員)
	福澤	小船
計画	令和6年(2024年)5月14日	令和6年(2024年)5月10日
報告	令和7年(2025年)5月26日	令和7年(2025年)5月26日

環境目的	省エネ法に基づくエネルギー使用量の低減															
環境目標	省エネ法における目標：前年度比（令和5年度（2023年度）比）で1%のエネルギー原単位削減															
目標達成の手段 (具体的にどんなことを進めるか)	成果の記録等	担当者	区分	スケジュール(令和6年度(2024年度))									備考 (合計)			
各施設毎に設定した原単位に基づき消費原単位の削減に取り組む	組合全体のエネルギー消費原単位前年度比(%) 省エネ法における目標：前年度比で1%のエネルギー原単位削減	計画財政担当	計画	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	99.0
			実績		99.7		143.4		76.2		99.0		90.3		96.9	
	増減			0.7		44.4		▲ 22.8		▲ 8.7		▲ 2.1				
	計画			575.2		626.1		633.7		519.7		2,354.7				
	実績			511.5		572.1		530.8		375.7		1,990.0				
	増減			▲ 63.7		▲ 54.0		▲ 102.9		▲ 143.9		▲ 364.7				
<進捗チェック> 推進員が四半期末に記入⇒推進責任者(課長)に提出	推進員：進捗状況確認日(日付) ⇒		令和6年8月15日	令和6年12月9日	令和7年2月25日	令和7年5月26日	令和7年5月26日									
	進捗状況マーク記入欄 ⇒		○	×	◎	◎	◎									
	目標に対する結果 (パフォーマンス) 進捗状況・実施事項等		第二工場の稼働日数が前年度同期より減少したことから、灯油及びコークスの使用量が減少し、エネルギー使用量が計画より63.7kl減少した。 また、炉の安定稼働に伴い生産数量当たりのエネルギー使用の効率化が図られたことにより、エネルギー消費原単位は前年度比99.7%と改善は見られたが、目標の前年度比99.0%を0.7%達成できていない状況である。	前年度同期は第一工場における設備の不調により買電が発生していたが、今年度は買電が減少したことによりエネルギー使用量は減少した。 また、エネルギー使用量の大部分を占める第二工場において、突発的なトラブル等で炉の点検等を実施したため、前年同期より稼働日数、生産数量及び販売副生エネルギーが減少した。 これにより、エネルギー消費原単位は目標の前年度比99.0%を44.4%達成できていない状況である。	前年度同期は、第一工場において、設備更新に伴い全炉停止による点検を実施したため、全炉停止中の買電の発生と炉の立ち上げに伴う灯油の使用量の増加によりエネルギー使用量が増加していたが、今年度は全炉停止を行っていないため、エネルギー使用量は減少した。 また、第二工場において生産数量及び販売副生エネルギーが前年度同期より増加し、エネルギー消費原単位は目標前年度比99.0%を22.8%下回った。	前年度同期と比較し、第二工場において稼働日数が減少したことによりコークスと灯油の使用量が減少したほか、全炉停止している期間を短縮したことで買電量が減少したため、エネルギー使用量が計画値より143.9kl減少した。 また、生産数量及び販売副生エネルギーにおいても前年度同期より減少しているが、全炉停止に伴う買電を削減できたことでエネルギー消費原単位は目標前年度比99.0%を8.7%下回った。	前年度と比較し、今年度は第一工場において全炉停止を実施しなかったことによる買電量の減少と炉の立ち上げ回数の減少、第二工場における稼働日数の減少により、エネルギー使用量が減少したため、エネルギー消費原単位は目標前年度比99.0%を2.1%下回った。									
	推進責任者(課長)：決裁日⇒		令和6年8月19日	令和6年12月11日	令和7年2月26日	令和7年5月26日	令和7年5月26日									

各担当者は、1か月に1回、表の実績欄に予定通り行われた場合は矢印または実績値を入れ、四半期の評価を進捗状況マーク記入欄に下記意味のマークを記入の上、目標に対する結果欄にコメントを記載する。
 進捗状況欄記入マーク
 ◎(100%以上):うまくいっている ○(100%未満~95%):概ねうまくいっている △(95%未満~90%):ほほううまくいっている ×(90%未満):うまくいっていない
 ※削減することが目標(100%未満がうまくいっている)の場合は、100/(実績値/計画値)により算出し、進捗状況マークを記入する。
 なお、数値目標の設定が困難な場合は、定性的な表現を用いることができる。
 *その他実績状況について、進捗状況・実施事項等の欄に記入

令和6年度（2024年度） 環境管理実施計画兼報告書 【課名：計画課】

署名	推進責任者（課長）	作成者（推進員）
	福澤	小船
計画	令和6年（2024年） 5月14日	令和6年（2024年） 5月10日
報告	令和7年（2025年） 5月26日	令和7年（2025年） 5月26日

環境目的	温暖化防止のため温室効果ガス排出量を削減する																
環境目標	東埼玉資源環境組合地球温暖化対策実行計画に基づき、令和6年度(2024年度)の二酸化炭素排出量を97,916t以下にする（基準年度排出量115,196tの▲15.0%とする）																
目標達成の手段 (具体的にどんなことを進めるか)	成果の記録等	担当者	区分	スケジュール（令和6年度(2024年度)）											備考 (合計)		
非エネルギー起源：89,639t以下 エネルギー起源：8,277t以下 【算出方法】 非エネルギー起源：年間焼却量× 廃プラ割合×(100%-水分量) ×排出係数 エネルギー起源：各燃料使用量 ×排出係数	四半期毎の非エネルギー起源、エネルギー起源に基づく二酸化炭素の量を算出 (四半期の計画内訳は令和5年度(2023年度)温室効果ガス排出量を基に按分した)	計画財政担当	計画	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	97,916	
			実績	28,623			27,012			21,132			21,149				95,372
			増減	▲ 5,610			▲ 2,027			4,377			1,521				▲ 2,544
				80.4%			92.5%			120.7%			107.2%				97.4%
<進捗チェック> 推進員が四半期末に記入⇒推進責任者(課長)に提出	推進員：進捗状況確認日(日付) ⇒			令和6年8月15日	令和6年12月9日	令和7年2月25日	令和7年5月26日	令和7年5月26日									
	進捗状況マーク記入欄 ⇒			◎	◎	×	○	◎									
	目標に対する結果 (パフォーマンス) 進捗状況・実施事項等			第一四半期(4-6月)の状況 計画:28,623t、実績:23,013t (4-6計画比80.4%、年間計画比23.5%) 【主な要因】 焼却量の減少 前年比 -6,174.50t(第一-4,175.17t、第二-1999.33t) 廃プラ割合の増加 実績22.8%(第一-20.3%、第二25.3%) 昨年度22.8%(第一-24.3%、第二21.2%) 固形分割合の減少 実績53.5%(第一-47.5%、第二59.4%) 昨年度60.8%(第一-57.8%、第二63.8%)	第二四半期(7-9月)の状況 計画:27,012t、実績:24,985t (7-9計画比92.5%、年間計画比25.5%) 【主な要因】 焼却量の減少 前年比 -5,147.22t(第一+221.97t、第二-5,369.19t) 廃プラ割合の減少 実績22.5%(第一-28.1%、第二16.8%) 昨年度24.3%(第一-24.8%、第二23.7%) 固形分割合の減少 実績60.1%(第一-58.6%、第二61.5%) 昨年度61.2%(第一-59.0%、第二63.3%)	第三四半期(10-12月)の状況 計画:21,132t、実績:25,509t (10-12計画比120.7%、年間計画比26.1%) 【主な要因】 焼却量の増加 前年比 +3,767.35t(第一+2,030.96t、第二+1,736.39t) 廃プラ割合の増加 実績22.7%(第一-23.7%、第二21.6%) 昨年度21.4%(第一-24.4%、第二18.3%) 固形分割合の増加 実績60.0%(第一-62.1%、第二57.8%) 昨年度56.5%(第一-55.7%、第二57.2%)	第四四半期(1-3月)の状況 計画:21,149t、実績:22,670t (1-3計画比107.2%、年間計画比23.2%) 【主な要因】 焼却量の減少 前年比 -4,032.71t(第一-1,845.18t、第二-2,187.55t) 廃プラ割合の増加 実績21.9%(第一-25.9%、第二17.8%) 昨年度20.6%(第一-21.0%、第二20.2%) 固形分割合の増加 実績62.1%(第一-57.3%、第二66.9%) 昨年度60.8%(第一-57.0%、第二64.6%)	令和6年度(2024年度)の状況 計画:97,916t、実績:95,372t (計画比97.4%) 【主な要因】 焼却量の減少 前年比 -11,587.08t(第一-3,797.40t、第二-7,819.68t) 廃プラ割合の増加 実績22.5%(第一-24.5%、第二20.4%) 昨年度22.2%(第一-23.6%、第二20.8%) 固形分割合の減少 実績58.9%(第一-56.4%、第二61.4%) 昨年度61.0%(第一-59.7%、第二62.2%)									
	推進責任者(課長)：決裁日⇒			令和6年8月19日	令和6年12月11日	令和7年2月26日	令和7年5月26日	令和7年5月26日									

各担当者は、1か月に1回、表の実績欄に予定通り行われた場合は矢印または実績値を入れ、四半期の評価を進捗状況マーク記入欄に下記意味のマークを記入の上、目標に対する結果欄にコメントを記載する。
 進捗状況欄記入マーク ◎(100%以上):うまくいっている ○(100%未満~95%):概ねうまくいっている △(95%未満~90%):ほぼうまくいっている ×(90%未満):うまくいっていない
 ※削減することが目標(100%未満がうまくいっている)の場合は、100/(実績値/計画値)により算出し、進捗状況マークを記入する。
 なお、数値目標の設定が困難な場合は、定性的な表現を用いることができる。
 *その他実績状況について、進捗状況・実施事項等の欄に記入

